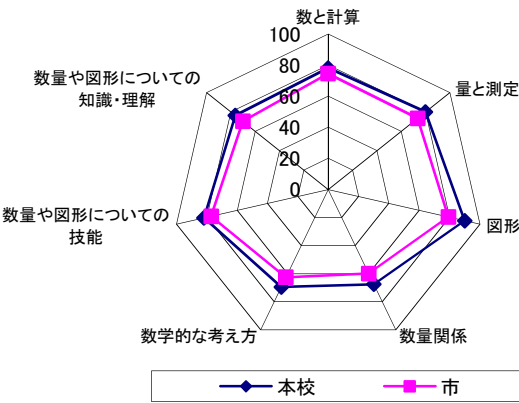


宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	78.1	74.5
	量と測定	79.9	73.5
	図形	90.0	79.2
	数量関係	67.6	59.9
観点別	数学的な考え方	69.6	62.5
	数量や図形についての技能	81.9	77.1
	数量や図形についての知識・理解	76.3	70.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市の平均を3. 6%上回っている。同分母の真分数÷真分数＝真分数の計算や、小数第二位－小数第二位の計算がよくできている。中で一番正答率が低かったのは、数直線上に示された分数を読み取ることで54. 9%であった。	○数直線上に示された分数については、分数の仕組みを指導したり、数直線の0～1までの等分数を指導しながら、類似問題の反復練習により習熟を図る。
量と測定	○平均正答率は、市の平均を6. 4%上回っている。分度器に示された角の大きさのメモリを読み取ることや、長方形の面積を求めることがよくできている。身近にあるものの面積を推察することの正答率が61. 9%で低い。	○身近にあるものの面積を推察することについては、普段の生活の中で大きさや長さなどをつかませるような場面を作り、感覚的な力を身に付けさせたい。
図形	○平均正答率は、市の平均を10. 8%上回っている。円と球、三角形の意味や性質をよく理解していた。	○円と球、三角形の意味や性質を使ってできる問題を、忘れさせない程度に用意して、理解を深めていく。
数量関係	○平均正答率は、市の平均を7. 7%上回っている。二次元表の読み方をよく理解している。しかし、折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取ることは56. 6%、二次元表を利用し、問題を解くことは46%と、市を上回っているものの正答率は低かった。	○折れ線グラフ・二次元表では、いろいろな二つの折れ線グラフや二次元表を用意し、グラフや表の特徴を読み取れるようにしていく。繰り返し練習し、定着を図る。